農産普及課 情報

アグリ高島

2021年7月号
No.243

溝掘機を利用することで深く、崩れにくい溝を形成することができます。しっかり講じられた排水対策は麦の収量向上へ繋がります！

発　行
滋賀県 高島農業農村振興事務所 農産普及課（〒520-1621高島市今津町今津1758）
TEL 0740-22-6025～6028　　FAX 0740-22-3099

この印刷物は、グリーン購入法適合紙を使用しています。

麦類を作付けし、農業所得向上と労力を分散しましょう！

高島市は稲麦大豆の単収が低く、高収益作物の作付も少ないのが現状です。また、飼料用米を含めた水稲栽培が中心であり、農作業の労力は４月から１０月に集中しています。

そこで、収益性の高い麦類を作付し、労力の分散を図りながら農業所得を向上させていきましょう！

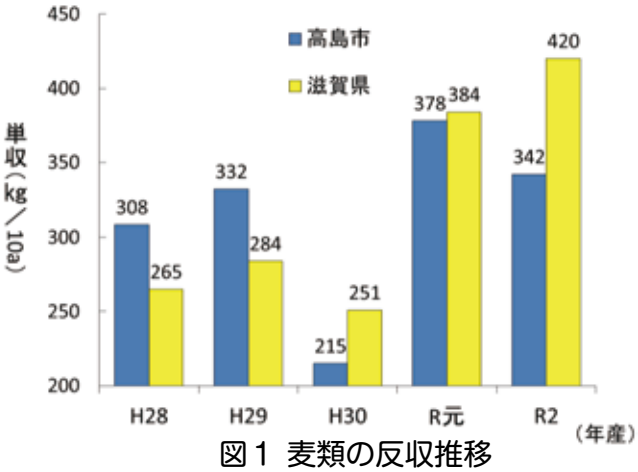


図１ 麦類の反収推移

１．麦類の作付比率と水田作物の収益比較

令和２年産の麦類は、滋賀県全体で水田面積の16%（約7,700ha）で作付けされていますが、高島市ではわずか2%（約97ha）にとどまっています（図２）。麦類の収益は、交付金を含めると水稲の２倍以上となり、単収を上げることで**10a当たり約６万円**を確保することも可能です（図３）。

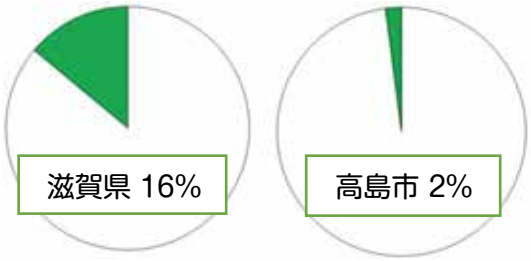


図２ 令和２年産の水田における麦類作付比率

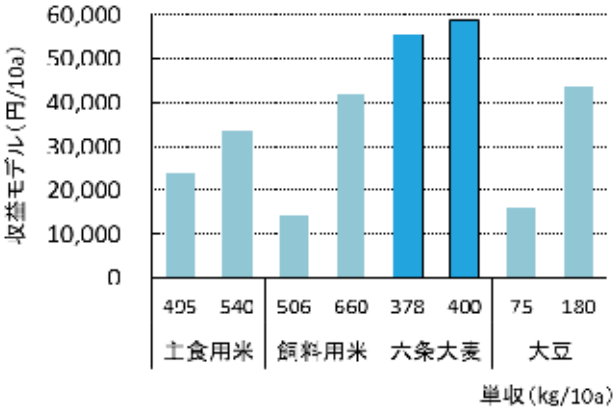


図３ 稲麦大豆の収益比較

２．麦類の栽培方法

1）栽培適地とほ場選定

近年の気象変化と過去の栽培実績から、マキノ町南部以南の湖辺平坦部では麦類の作付が可能と考えられます。

ただし、麦類は湿害に弱いため、排水対策を講じても水が溜まるような湿田には適していません。そのため、乾きやすいほ場に作付けしましょう。そのうえでしっかりと排水対策を講じましょう。

2）湿害対策

（1）前作の水稲での対策

麦栽培で排水性を高めるには、前作の水稲で中干しをしっかり行い、収穫時にほ場を荒らさないことが重要です（図４）。

図４ 中干しが不十分なほ場での
コンバイン収穫後の様子

（2）排水対策

ほ場が乾いたら、耕起前に心土破砕と額縁明きょ（溝）を施行します（図５）。

心土破砕は、サブソイラー等の鋤を使い、深さ30㎝、2m間隔で行います。

額縁明きょは、溝掘機を使ってほ場の内周に深さ30㎝の溝を掘ります。

また、ほ場内部にも４～ 6m間隔に溝を掘ると排水性はさらに高まりますが、播種後に培土板を使って溝を掘ることもできます。

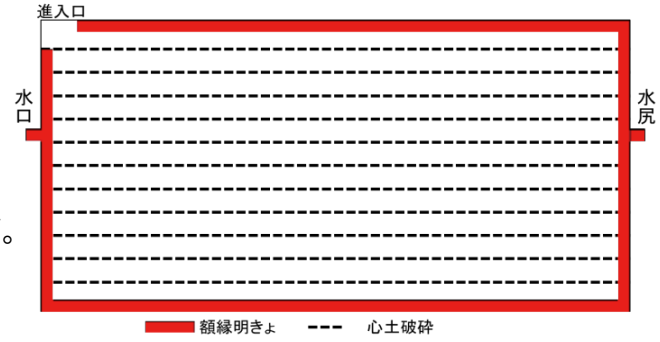


図５ 額縁明きょと心土破砕の施工例

3)「ファイバースノウ」の栽培方法

（1）土づくり

耕起前に、石灰質資材100㎏/10ａを散布します。

（2）播種

①播種時期　10月下旬～ 11月上旬

②播種方法　条播または散播

○条播　トラクターで耕耘しながら播種機で種子８㎏/10ａを条間25㎝で条播します。

○散播　トラクターで耕耘後、背負式動力散布機で種子10㎏/10ａを均一に散播後、地表５㎝深の表土を攪拌します。

（3）施肥（全量基肥体系）

基肥　播種前または播種時に窒素12㎏/10ａを施用します。

（窒素を30％含む肥料では40㎏/10a）

追肥　２月下旬に窒素２㎏/10ａを施用します。

（4）除草剤　播種時または播種後にほ場全面に施用します。

（5）病害対策　赤かび病の発生を防ぐため、開花期と開花７日後の２回防除します。

（6）収穫　５月下旬～６月上旬頃に穂首が曲がってくれば収穫適期です。

黄綬褒章受章

令和３年４月29日に春の褒章受章者が発表され、高島市朽木の田原善裕氏が黄綬褒章を受章されました。

田原氏は、20歳の時に繁殖牛３頭の飼養を始められました。その後、積極的に規模拡大を行い、平成７年には（有）宝牧場を立ち上げ、現在は肉用牛1,400頭、乳用牛300頭を飼養されています。６次産業化にもいち早く取り組み、乳製品の加工・販売や自家牧場産牛肉を提供する焼肉レストランを展開し、地域の雇用を創出するほか県内外からの誘客により地域振興に貢献されています。

田原　善裕氏（朽木）

たまねぎの栽培安定は早植えから！
固くて腐りにくい「たまねぎ」をつくるために

当課では水田農業経営に導入する複合品目として、「たまねぎ」をおすすめしています。

たまねぎは機械化栽培体系が最も進んでいる野菜で、高島地域でもJAへの機械導入を機に、栽培が拡大してきました。

たまねぎの栽培において収量安定を妨げる最大の原因は腐敗です。りん茎腐敗の多くは、収穫の少し前ごろに細菌に感染して起こります。細菌の感染を防ぐには、「固くしまった株」となる栽培管理が重要です。あわせて収量を十分に確保できる手段が**10月後半に定植する『早植え』**です。

早植えすると、生育はどう変わる？

従来通り

活着前に冬に入り、年内にはあまり生育しません。

ようやく根が伸び始め、遅れて地上部が生育し始めます。

生育開始が遅れた分、葉の数は少なく、茎葉は徒長気味で柔らかくなります。

りん茎は水分が多く柔らかく肥大するので、腐敗のリスクが高い状態です。

10月後半 ❯ 11月中旬 ❯ 12月 ❯ 3月 ❯ 4～5月 ❯ 収穫直前

早植え

早期に活着し生育が進みます。冬季は根部がじわじわと生長します。

広く張った根が養分を吸収し、地上部が太くがっちり生育します。

葉の数が多く確保できているので、光をたっぷり受け、りん茎が充実します。

りん茎はがっちりと充実し、比較的腐敗に強い状態です。

ポイント

1. しっかりとした太い苗を植えましょう。播種時期も早め（8月下旬）に。
2. 極端な早植えは「とう立ち」につながるので、10月15日以前の定植はやめましょう。また、肥料が切れると「とう立ち」しやすいので、追肥は適期に必ず施用しましょう。
3. 腐敗性の病害は、倒伏時に折れた茎葉から感染します。倒伏が始まってからも、農薬防除を行うと効果があります。

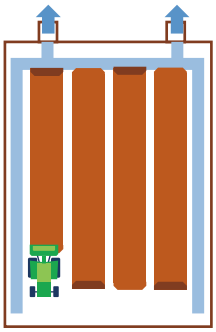
（使用時期の制限がない安全性の高い薬剤があります）

思わぬ天候不良が、定植時期の遅れを招く 早期からのほ場準備が重要です！

定植前に、雑草対策のためほ場を鋤き込むときは、浅く荒く耕うんする。

ほ場の額縁明きょは、可能な限り早く施工し、排水口とつないでおく。

施肥同時うね立て器がある場合は、先に仮うね立てをして排水経路を確保し、定植直前に再度うね立て（＋施肥）を行うとよい。



額縁明きょと仮うね立てで排水経路を確保